

2014年11月18日

江南市長 堀 元 様

日本共産党江南市議員団

森 ケ イ 子

東 義 喜

掛 布 ま ち 子

平和行政の推進を求める申し入れ書

日頃は、市民福祉の増進のためにご尽力いただきありがとうございます。

さて、江南市が昭和61年2月に「国際平和都市」を宣言してから28年が経過しました。この間江南市では、宣言にもとづいて、核兵器の一日も早い撤廃と国際平和実現のため平和行政が推進され、国際交流も活発に行われ相互理解を深める努力がなされてきました。

ところが最近、国際平和都市宣言と相容れない市政運営が行われている疑念が生じています。宣言にもとづく平和行政を強力に推進するよう求め、下記の3点を申し入れます。

記

1. 市総合防災訓練へ、自衛隊軽装甲機動車を参加させないこと。自衛隊ブースを設けるのを止めること。

11月1日に行われた市総合防災訓練に、迷彩服の自衛隊員と軽装甲機動車が参加しました。地震被害を想定した防災訓練の場に、全くそぐわず必要性もない戦闘地仕様の装備で参加することは、「戦争する自衛隊のイメージ」を市民にPRし刷り込もうとするものです。自衛隊ブースも、防災訓練には必要ありません。

2. 市制60周年記念文化講演会の講師に櫻井よしこ氏を呼ぶのを止めること。

来年3月14日開催の文化講演会の講師に予定されている、櫻井よしこ氏は、日本政府の正式談話である河野談話を口を極めて非難し、また日本の核武装を肯定的に表現するなど、国際平和都市宣言に反する見解を堂々と発表している人物であり、市主催講演会の講師としてふさわしくないことは明らかです。

3. 中学生を職場体験学習で自衛隊へ行かせないこと。

近隣自治体の中に、自衛隊の小牧基地等で中学生の職場体験学習を行わせるところが出ています。江南市においても、受け入れ可能な職場として自衛隊を選択肢に入れており、生徒が選択すれば行ける状態にあります。しかし自衛隊の本務は防衛であり、戦闘するための訓練が必然的に求められます。中学生の職場体験としてふさわしくありません。

以 上